令和３年度　矢板市学校支援ボランティア講座通信

できることから

大人も夢中に？！
プログラミングに挑戦！

矢板市では、小中学校で１人に１台のタブレット端末が配られ、普段の授業でも活用が進んでいます。

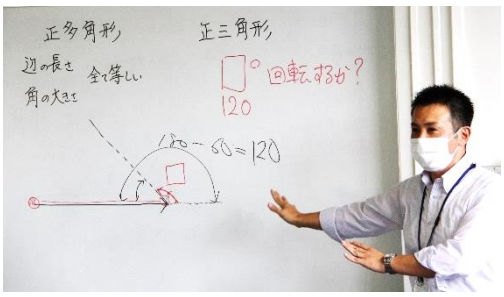
第４回の矢板市学校支援ボランティア講座では、泉小学校のコンピュータ室をお借りして、実際にタブレット端末を操作しながら、プログラミング学習について、国の施策や子どもたちが学ぶ内容を知り、ボランティアとしてどのようなサポートが必要か考えました。

矢板市教育委員会の森本聡指導主事を講師に迎え、先の見通しが難しいこれからの時代を生き抜くために子どもたちにとって、どのような力が必要なのかも考えることができました。

「プログラミングは難しそうで嫌というイメージだったのですが、今日やらせていただいたタブレットドリルはとっても楽しくてもっとやりたいと思えました。」と振り返った受講生の神谷さん。受講生にとっては、少し遠いところにあった「プログラミング学習」・・・実際に体験することを通して、決して難しいものではなく、子どもたちにとって必要な力を育むのに有効だと捉える受講生が多くいました。

正多角形を描くために、どんなプログラムにすればよいのかと、トライ＆エラーを繰り返しながら、夢中になって取り組む受講生の姿がとても印象的でした。

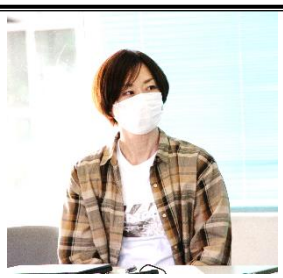
こうした学びを楽しむ前向きな姿勢こそが、子どもたちと接するときに必ずより大きな効果につながるのだと思います。たくさんの良質な大人とのかかわりが、子どもたちのよりよい成長には必要だと言われています。



次回は、ミシンを使ってトートバッグを作ることに挑戦。
その中から、どんな気づきや学びがあるのか楽しみでなりません。

⬆講師　森本指導主事

第４回
振り返りより
みなさんの声
どどーんと紹介



・タブレットを使った学習がどのようなものか分からない部分がありましたが、タブレットを使うと楽しく学ぶことができると感じました。大人の私も楽しめたので、子どもたちはもっと「できる喜び」を感じることができると思います。

・プログラミングは今後必要となってくるので、サポートできることがあれば、関わっていきたいと思います。

・プログラミングの学習でも自分で考えて進んでいく必要があるので、受け身だけではないということがよくわかりました。

・ボランティアがいれば生徒間の差が生まれないと思いました。

・とても楽しかったです。きっと、子どもたちの授業も楽しいのでしょうね。

・これからの社会を生きていく上で、インターネットを有効に使用していく大切さが理解できました。プログラミングを行うことによって、より深く理解できることもあり勉強になりました。ボランティアとしてどのようにかかわったらよいのか自分で体験してみて少し見えてきた部分もあります。大変お世話になりました。

・ボランティアとして参加するときは、答えを出さずにヒントを伝えてあげられるように工夫したいです。

・プログラミング初体験ですが、とても興味深く、楽しささえ感じました。しかし、実際子どもに支援する立場となると、少し不安です。

・タブレットを使いこなす意義がわかったような気がする。現在でも AI 技術がない世界は考えられないので、子どもたちもどんどん活用してほしい。

・助言の仕方はちょっと難しいかもしれないけど、積極的にさわってみて考える力をつけてほしい。

・算数の答えまでのプロセスが、プログラミングの場合、新しい考え方が必要だとよくわかりました。もし子どもたちを支援する場合、自分もよく理解しなければならないと思います。そのための勉強会があったら、ぜひ参加したいです。

・ボランティアの方が勉強して追いついていかないといけないと思う。

・やっぱり近くにボランティアの人がいてくれるとありがたいと感じた。改めてプログラミングの良さも感じた。（定規、コンパス等が苦手でも、きれいに描くことができる）

・実際にコンピュータを開き、動かしてみることができ、活用の仕方などがわかり、もっともっと前向きに考えながら勉強していきたく思いました。

・初歩的なプログラミングをしましたが、慣れることが大切ですし、考えさせられました。

・今の世の中は、情報化社会なので、それに付随した創造力、思考力、考え直す力は必要だと思いました。

（文責：生涯学習課　海瀬）